

IOWN APN の更なる普及展開に向けて

～APN Step3 へのチャレンジ～

— 講 師 —

NTT 株式会社 ネットワークサービスシステム研究所

ネットワーク基盤技術プロジェクト プロジェクトマネージャ 田村 藤嗣彦 氏

日 時	2026 年 2 月 6 日 (金) 午後 1 時～3 時
受講方法	会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2 週間、何度でもご視聴可)
会 場	紀尾井フォーラム 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート1F

[重点講義内容]

NTT が 2019 年に提唱した IOWN 構想の中核を担う大容量・低遅延・低消費電力な光インフラである APN (All-Photonics Network) は、2023 年に APN IOWN1.0 として商用サービスとして提供開始しました。現在、最大 800Gbps のユーザ拠点間で帯域保証型の通信サービスとして提供されており、APN は着実に進化を遂げています。

今後、AI やデータセンタの急速な発展や多様化するユーザニーズに対応するため、オンデマンドで End-to-End での光接続を面的に展開する APN Step3 の研究開発を進めています。本講演では、APN Step3 の目指す世界、実現を支える技術、IGF (IOWN Global Forum) や ITU-T での標準化活動や実証実験などの取り組みについて説明します。

1. IOWN 構想と All-Photonics Network (APN) の現状
2. APN Step3 で目指す世界
3. APN Step3 を支える技術
4. 標準化への取り組み
5. 実証実験を通じた更なる普及拡大に向けて
6. 今後の展望
7. 質疑応答／名刺交換

PROFILE 田村 藤嗣彦 (たむら としひこ) 氏

2000 年 慶應義塾大学大学院 工学修士。同年 日本電信電話株式会社 入社。ネットワークサービスシステム研究所にて次世代モバイル網の研究や VPN ゲートウェイ装置の開発、IPv6 Ready Logo Program 仕様策定等に従事。2011 年 同社 研究企画部門 R&D 推進 担当課長、2014 年 NTTドコモ コアネットワーク部 ルータ網計画 担当課長、2019 年 同社 ネットワーク開発部 トランスポート基盤 担当部長、2024 年 日本電信電話株式会社 ネットワークサービスシステム研究所 企画担当 主席 研究員、2025 年 NTT 株式会社 同研究所 ネットワーク基盤技術プロジェクト プロジェクトマネージャ (現職)

